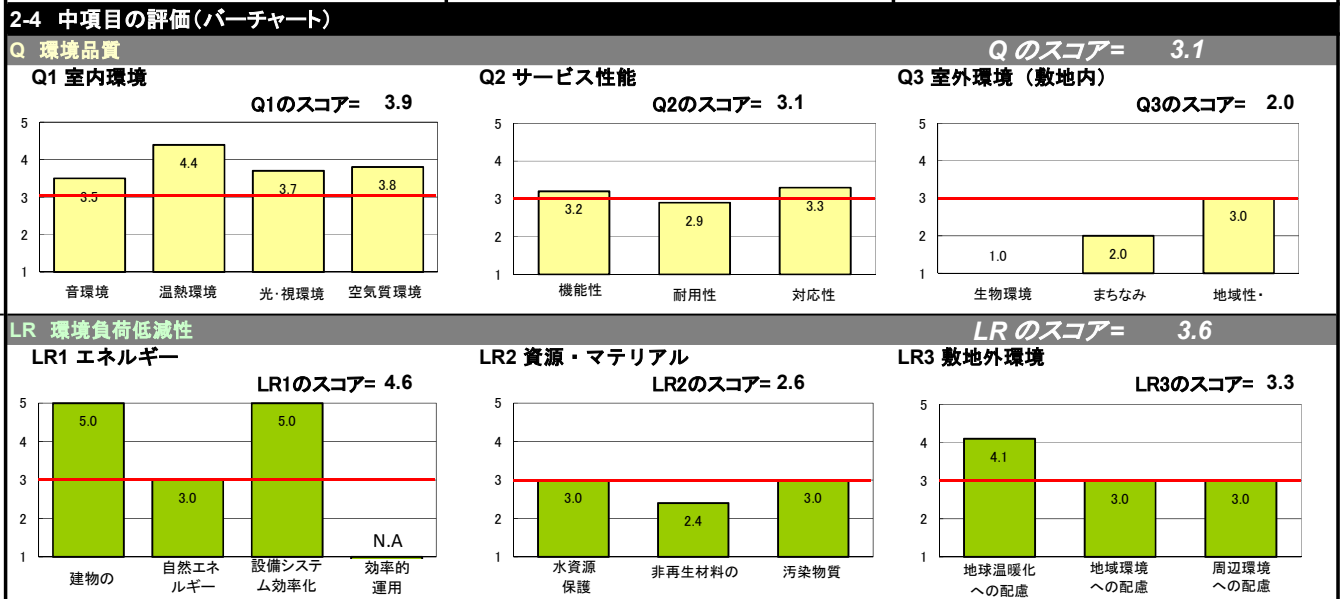
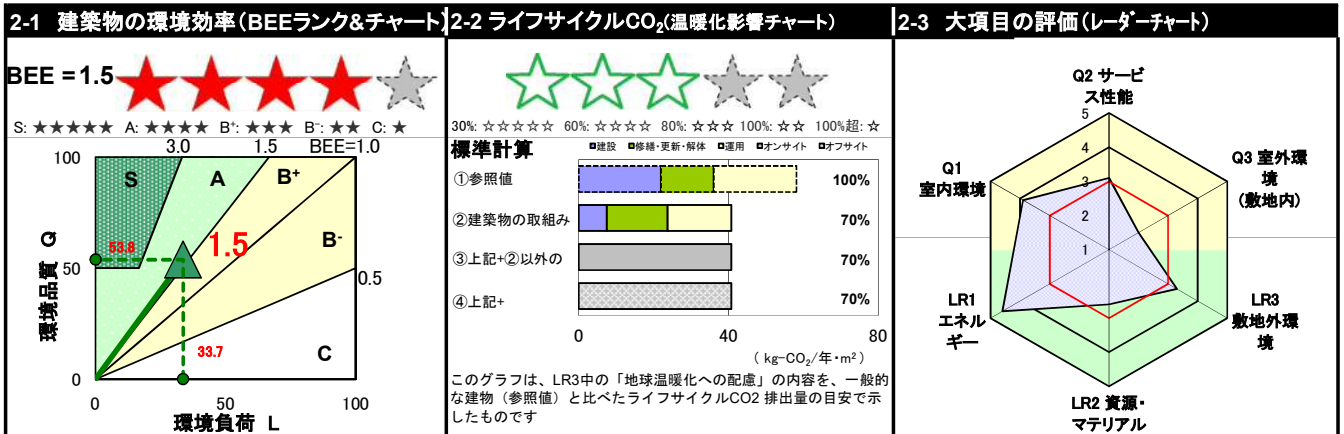


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 14054

建築物名称	イニシア鷺沼レジデンス新築工事
建築主	株式会社コスモスイニシア 企画開発本部 副本部長 柏木恒二
建築物の所在地	川崎市宮前区鷺沼1丁目2番地7
設計者氏名、建築士事務所名	手塚 良樹 株式会社手塚良樹建築設計畑 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,450.14m ²
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上10階
工事完了年月	平成28年4月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

1-1 建物概要		1-2 外観		14054
建物名称	イニシア鷺沼レジデンス 新築工事	階数	地上10F	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください
建設地	川崎市宮前区鷺沼1丁目2-7	構造	RC造	
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	120 人	
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2016年4月 竣工	評価の実施日	2014年11月4日	
敷地面積	662 m ²	作成者	(株)手塚良樹建築設計畑	
建築面積	305 m ²	確認日	2014年11月4日	
延床面積	2,450 m ²	確認者	(株)手塚良樹建築設計畑	



CASBEE-川崎2011 (v.1.2)

イニシアティブレジデンス 新築工事

14054

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準を満たす 植栽により良好な景観を形成している 空地率53%、緑化水平投影面積19%	1.6/4.3	1.8
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	気象データの把握、地表面対策率28%	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.3
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.3 外皮性能	住宅性能表示基準 省エネルギー対策等級4	5.8/6.4	4.5
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.2 屋光制御			
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.2 屋光制御	住戸部カーテン、庇により屋光制御		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準を満たす 空地率53%、緑化水平投影面積19%	0.8/2.3	1.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	住宅性能表示基準 省エネルギー対策等級4 潜熱回収型ガス給湯器を採用	4.6/5.0	4.6
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.4/4.6	2.6
2 非再生性資源の使用量削減			
3 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	気象データの把握、地表面対策率28%	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.7
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	2.9
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.0/3.9	2.5
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準を満たす 空地率53%、緑化水平投影面積19%	0.8/2.3	1.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	住宅性能表示基準 省エネルギー対策等級4 潜熱回収型ガス給湯器を採用	4.6/5.0	4.6
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	気象データの把握、地表面対策率28%	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	住宅性能表示基準 劣化対策等級3	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の再利用		0.8/1.4	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	住宅性能表示基準 省エネルギー対策等級4 潜熱回収型ガス給湯器を採用	4.6/5.0	4.6
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEF-川崎2011年版						欄に数値またはコメントを記入				14054
スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
						評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										3.1
Q1 室内環境							0.40			3.9
1 音環境						4.0	0.15	3.4	1.00	3.5
1.1 騒音						3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室内騒音レベル						3.0	1.00	3.0	0.50	
2 設備騒音対策								3.0	0.50	
1.2 遮音						5.0	0.50	3.8	0.50	
1 開口部遮音性能					T-2サッシを採用	5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					LL45	3.0	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境						2.6	0.35	5.0	1.00	4.4
2.1 室温制御						3.0	0.50	5.0	1.00	
1 室温						3.0	0.63	-	-	
2 負荷変動・追従制御性						-	-	-	-	
3 外皮性能			W		住宅性能表示基準 省エネルギー対策等級4	3.0	0.38	5.0	1.00	
4 ゾーン別制御性						3.0	-	-	-	
5 温度・湿度制御						-	-	-	-	
6 個別制御						-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮						-	-	-	-	
8 監視システム						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.0	0.25	4.0	1.00	3.7
3.1 屋光利用						4.2	0.30	4.0	0.50	
1 屋光率					専有部分8.6%、共用部分4.5%	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	3.0	0.30	
3 屋光利用設備			W			3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						2.0	0.30	4.0	0.50	
1 照明器具のグレア						-	-	-	-	
2 屋光制御			W		住戸部カーテン、庇により屋光制御	2.0	1.00	4.0	1.00	
3 映り込み対策						-	-	-	-	
3.3 照度						3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.8	1.00	3.8
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆の建材を使用している	4.0	1.00	4.0	1.00	
2 アスベスト対策						-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等						-	-	-	-	
4 レジオネラ対策						-	-	-	-	
4.2 換気						3.0	0.40	3.6	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能					居室面積の1/6以上の開口面積を確保	3.0	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4 給気計画						-	-	-	-	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	-	-	-	

Q2 サービス性能									
									3.1
1 機能性									3.2
1.1 機能性・使いやすさ									0.60
1	広さ・収納性			3.0	-	3.0	-		
2	高度情報通信設備対応			3.0	-	4.0	1.00		
3	バリアフリー計画			3.0	1.00				
1.2 心理性・快適性									0.40
1	広さ感・景観			3.0	-	4.0	0.50		
2	リフレッシュスペース			3.0	-				
3	内装計画			1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理									
1	維持管理に配慮した設計			4.0	0.30				
2	維持管理用機能の確保			5.0	0.50				
3	衛生管理業務			3.0	0.50				
2 耐用性・信頼性									2.9
2.1 耐震・免震									
1	耐震性			3.0	0.48				
2	免震・制振性能			3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数									
1	躯体材料の耐用年数	R		2.9	0.33				
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		5.0	0.23				
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		2.0	0.23				
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		2.0	0.09				
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		3.0	0.08				
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		3.0	0.15				
2.4 信頼性									
1	空調・換気設備			3.0	0.19				
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20				
3	電気設備			3.0	0.20				
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20				
5	通信・情報設備			3.0	0.20				
3 対応性・更新性									3.3
3.1 空間のゆとり									
1	階高のゆとり					3.8	0.50		
2	空間の形状・自由さ			3.0	-	5.0	0.60		
3.2 荷重のゆとり									
3.3 設備の更新性									
1	空調配管の更新性			3.0	-	3.0	0.40		
2	給排水管の更新性			3.0	-				
3	電気配線の更新性			3.0	-	3.0	0.50		
4	通信配線の更新性			3.0	1.00				
5	設備機器の更新性			3.0	0.17				
6	バックアップスペース			3.0	0.17				
Q3 室外環境(敷地内)									2.0
1 生物環境の保全と創出				G	W	H			1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G					2.0
3 地域性・アメニティへの配慮									3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H			3.0

LR 建築物の環境負荷低減性									3.6
LR1 エネルギー									4.6
1 建物の熱負荷抑制				W	H			住宅性能評価における省エネルギー対策等級4	5.0
2 自然エネルギー利用									3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				W	H				3.0
2.2 自然エネルギーの変換利用				W	H				3.0
3 設備システムの高効率化				W	H			潜熱回収型ガス給湯器を採用	5.0
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)									5.0
集合住宅の評価									5.0
4 効率的運用									-
4.1 モニタリング				W	H				3.0
4.2 運用管理体制				W	H				3.0
LR2 資源・マテリアル									2.6
1 水資源保護				W	R				3.0
1.1 節水									3.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用									3.0
1 雨水利用システム導入の有無									3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無									3.0
2 非再生性資源の使用量削減									2.4
2.1 材料使用量の削減				W	R				2.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W	R				3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W	R				3.0
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用				W	R				1.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W	R				2.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W	R				3.0
3 汚染物質含有材料の使用回避									3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用									3.0
3.2 フロン・ハロンの回避									3.0
1 消火剤				W					-
2 発泡剤(断熱材等)				W					3.0
3 冷媒				W					3.0
LR3 敷地外環境									3.3
1 地球温暖化への配慮				W				ライフサイクルCO2排出率70%	4.1
2 地域環境への配慮									3.0
2.1 大気汚染防止									3.0
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W	H			3.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制									3.0
1 雨水排水負荷低減					R				-
2 汚水処理負荷抑制					R				3.0
3 交通負荷抑制					R				3.0
4 廃棄物処理負荷抑制					R				3.0
3 周辺環境への配慮									3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止									3.0
1 騒音									3.0
2 振動									-
3 悪臭									-
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制									3.0
1 風害の抑制									3.0
2 砂塵の抑制									3.0
3 日照障害の抑制									3.0
3.3 光害の抑制									3.0
1 昼間照明及び屋内照明のつらみに漏れる光への対策									3.0
2 昼間の建物外壁による反射光(グレア)への対策									3.0